

不登校児への学習支援を中心に 子どもにとってよりよい環境づくりを

特定非営利
活動法人 **ブレインヒューマニティー** (阪神地域)

「今の活動を始めるきっかけは、1人の子どもの出会いです」
西宮を拠点に、阪神地域の不登校児に対して学習支援を行っている「ブレインヒューマニティー」の能島裕介理事長が、数年前を振り返る。

「もともと関西学院大学の学生を中心に阪神淡路大震災に被災した子どもたち」

「中に家庭や避難所で勉強を教えるといった支援活動を行っていた。その教え子の中に、不登校の子どもが1人いた。当初は正直戸惑いました。でも、その子と向き合ううちに不登校そのものの原因とは別に勉強の遅れに対する不安を抱えていることがわかってきました。それまで不登校児への学習支援を中心にしたプログラムはなかったの

で、私たちが取り組むことになりました」
一般的にはいじめなどの出来事がない

「不登校の原因と考えがちだが、実際には学校の中に自分の居場所が見つからず、足が遠のいてしまうケースも多い。原因が何であれ、学習の遅れへの対応は重要な問題である。学習支援による学力の回復が再登校のきっかけとなることもあるが、能島さんたちの目的は、復学させることではない。

「大切なのは、子どもたちがそれぞれの価値観に沿って安心していられる、自発的に選択していける、そういった環境をつくることだと思っています」

学生講師の人材養成も、活動の大きな柱である。



研修の様子。身体を使ってコミュニケーションについて考えるなど、内容もユニーク



子供の自主性を尊重する能島理事長



不登校児の支援事業を担当している宮前正裕さん(左)と事務局長の近藤絵美子さん

「まず最初に、自己理解を含めたうえで対人関係トレーニングの研修を20時間受けてもらっています。その後毎月1回、心理学の専門家やスクールカウンセラーなどを交えた継続研修を行い、子どもたちと接するうえでの情報交換と学生講師たちの精神的負担の軽減もはかっています」

その学生たちからは、この夏に実施される不登校児を対象にしたキャンプをはじめ、新たな企画やアイデアが次々と出されている。活動に携わることによって、学生自身も「社会の役に立ちたい」という意識を強めているようだ。今後は、かつて不登校児を持っていた人による「ピアカウンセリング」など、不登校児の親へのサポートについても視野に入れていく。また、これまでの活動で得たノウハウを他地域でも実践できるパッケージングプログラムにまとめる計画も立てている。

ファイザープログラム

「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」

2001年度 募集要項

1. 募集期間: 2001年7月2日～8月13日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2002年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身の保健・医療を支援する活動
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
身体障害、知的障害、精神障害などの人たち、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:
ファイザー製薬株式会社 企業文化室
03-3344-7524
応募要項はホームページ
<http://www.pfizer.co.jp> からダウンロードできます